

2026年8月30日 説教「新しく生まれる」

ヨハネの福音書3章1～8節

本日は連続で学んでいるルカの福音書ではなく、ヨハネの福音書3章から学んでいきます。比較的よく覚えられている箇所かもしれません。一緒に考え、教えられていきましょう。

1. ニコデモの訪問（1～3節）

①ニコデモ（1）「さて、パリサイ人の中にニコデモという人がいた。ユダヤ人の指導者であった。」

ユダヤ教の中心的なグループであるパリサイ派は、神の絶対性を信じ、モーセ五書と預言書を受け入れ復活を信じていました。ニコデモはその派に属していました。彼についてユダヤ人の指導者とありますが、サンヘドリン（ユダヤ人議会）の議員でした。4節に「老年になって」とありますから、パリサイ派の中でも重鎮であったことでしょう。

②夜の訪問（2）「この人が、夜、イエスのもとに来て言った。『先生。私たちは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神がともにおられるのでなければ、あなたがなさるこのようなしるしは、だれも行うことができません。』」

そのニコデモが、夜に人目をはばかるようにして、イエスが滞在している所にやってきたのです。言うまでもなく、パリサイ派の指導者がイエスのところに来たともなれば、何かを言う人が出る可能性があったからです。しかし、彼はイエスのことがとても気になっていました。水をぶどう酒にした奇跡（2章）などを伝え聞き、イエスが神のもとから来た人であるに相違ないと思ったことでしょう。そして、イエスは特別な人と直感して、「私たちは、あなたが神のもとから来られた教師であり、神が共にいてくださることを知っています。」と質問したのです。

③新生（3）「イエスは答えて言われた。『まことに、まことに、あなたに告げます。人は新しく生まれなければ、神の国を見ることができません。』」

ところが、イエスはニコデモの質問に直接の答えをなさいません。そして大切なことを伝える時の表現「まことに、まことに」とまずは言われます。元の言葉では「アーメン、アーメン」です。日本語に直せば、「真実に、真実に」となります。そう言われた後に言われたお言葉が、「人が新しく生まれなければ、神の国を見ることができません」でした。イエスは、ニコデモが心の底で求めていることをズバリと言われたのです。それは、人間の生と死、救い、といった、生きる核心の事でした。

2. 水と御霊によって生まれる（4～6節）

①もう一度母の胎に？（4）「ニコデモは言った。『人は、老年になっていて、どのようにして生まれることができるのですか。もう一度、母の胎に入って生まれることができますでしょうか。』」

すると、ニコデモは「人は、老年になっていて、どのようにして生まれることができますか。再度、母の胎に入ることなど無理でありましょう。」と反応したのです。どうも、イエスとニコデモの会話はかみ合いません。ニコデモにと

って生まれると言えば、どこまでも肉体のことでした。それがユダヤ教の特徴であつた。彼は自分のように、老年になった者の新生は考えにくく、母の胎に入りなおすと言っているのも、別にふざけている訳ではなく、真剣にそのように述べているのです。

- ②神の国に入るために (5)「イエスは答えられた。『まことに、まことに、あなたに告げます。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることができません。』」

イエスはニコデモの考えることとは、次元の違うことを話しておられたのです。つまり、主イエスは魂の中においての、新たな誕生のことを語っておられるのです。即ち、水によって生まれるとは罪からのきよめを、御霊によって生まれるとは霊的誕生という意味合いがあつたのです。

- ③肉と御霊 (6)「肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。」

ですから、地上の命のことだけを考えていれば、どこまでも肉のことです。しかし、御霊によって生まれるということを受入れていくことによって、新しく生まれるという、実現していくのです。それは、ニコデモにとっては有りえないことでありました。

3. キリストにある永遠の命 (7~8 節)

- ①不思議に思つてはなりません (7)「あなたがたが新しく生まれなければならない、とわたしが言ったことを不思議に思つてはなりません。」

イエスが伝えることはニコデモには突拍子もないことのように思えたかもしれませんが、「新しく生まれる」とういのは、「上から生まれる」とも訳せますが、そのような発想をニコデモはしたことがありませんでした。そこで、イエスは、それを不思議に思つてはいけません。これからたとえ話で、伝えればわかると思いますからということでありましょう。

- ②風のたとえ (8)「風はその思いのままに吹き、あなたはその音を聞くが、それがどこから来てどこへ行くかを知らない。」

この風というのはプニユマという言葉です。御霊と訳されている言葉はプニユマトスですから、仲間の言葉です。同じ意味にとっても支障ありません。ここでは喩に風が用いられています。風は素朴に考えれば、それがどこから始まってどこまで行くのかはわかりません。しかし、その音を人は聞くことができます。また、肌は風が吹いていることを感じるすることができます。イエスは風という、日常的な自然現象のことを用いて、真理を伝えようとされているのです。

- ③御霊によって生まれること (8)「御霊によって生まれる者もみな、そのとおりです。」

それと同じように、御霊によって生まれるということも、その命の風がどこから来たのかはわからないのですが、確かにそこに命が始まっているということを実感することができるのです。御霊によって生まれるというのはそういう種類のことですよ、と主イエスは教えられたのです。

《結論》

アメリカ合衆国において、50 年以上前にウォーターゲート事件が起きました。ニクソン大統領と周辺による盗聴、侵入などの出来事が暴露された大事件でした。ニクソンの側近の一人であつたチャールズ・コルソンという人がいます。彼は後にクリスチャンになって、その罪の告白も含めた「ボーンアゲイン」という本を出しました。それはまさに「新しく生まれる」という意味です。この出来事の後には、立場も心もどん底まで落とされたコルソンが救われていくドラマでもあります。この本の中にこんな表現があります。「神学的な用語のことであれこれ議論する人たちでいっぱい、殺風景な教室のベンチに座った私の体に、この世のものとは思えない、泡立つような興奮が走った。フィリップスの私道で経験した、あの罪からのきよめの時に似た感じである。それが幾度も繰り返される間、私は祈り続けていた」。コルソン氏は、新しく生まれるということを経験の上ではなく、その存在全体において、恵みとしていただいたということをおっしゃっているのです。

まずはこの肉体の命が生まれるということ自体が奇跡だということを確認しましょう。よく、「子どもをつくる」という傲慢な言葉が使われますが、人間がこの命を造り出せるはずがありません。命の誕生というのはまことに神秘的なものだと思います。恵みの神の創造の秩序のなかであつて、新しい命が誕生するのです。そのようにして生まれてきたのですから、その恵みを覚えつつ、感謝して祝福に溢れた歩みをしていくことができるようにと祈るのです。

そして、もう一つの命の問題が今朝の聖書記事においては記されているわけです。ニコデモはどこまでいっても、肉体の命のことにしか考えが及ばず、話は平行線です。イエス・キリストはもう一つの命のことを伝えているのです。聖書の元の言葉では命という言葉は二つあつて、肉体の命はプシュケーといい、永遠の命のことはゾーウェーというのです。プシュケーの命が与えられていることも、大いなる恵みですが、イエス・キリストは、御霊の風が吹くと新しく生まれて、ゾーウェーの命が宿されることを教えておられるのです。そして、それは具体的には、上に伝えたコルソンの場合もそうでしたが、自らの罪に気づかされ、罪を認めて、神の前に告白する時に、罪は赦されていくのです。罪の根本は神からの離反ですが、イエス・キリストの十字架上の身代わりの死を通して、人間に救われる道が備えられたのです。

私自身は高校 2 年のクリスマスに洗礼を受けたのですが、救いの確信はありませんでした。このコルソンさんが経験したよりは少し前に、大学の屋上において、罪の告白と赦しをいただいて、新しく生まれているということを確認しました。しかし、永遠の命を与えられていると確信したからといって、与えられた新たな命を受けながらも、心のうちでも外側でも罪に舞い戻ってしまうことは何回もありました。そんな者にも、主は憐れみで回復を与え、今でも新しく生まれた命を確認して生かしていただいていることを感謝します。

ここではまだ救いに導かれていないニコデモは、この後に新しく生まれることになります。キリストの葬りに連なっているので明らかでしょう。讃美歌 239 番 4 節に「さまよう人々、立ち返りて、十字架の上なる、イエスを見よや。血しおの滴る、御手を広げ、いのちを受けよと招きたもう」とあります。主は御手を広げて、「命を受けなさい」と言ってくださっているのです。受けましょう。クリスチャンにも求道者にも、主イエスは、今も呼びかけておられるのです。